



農家の人がタネや苗を植えて野菜を収穫するように、森林にも、人の手でつくられた木材を収穫するための森林があります。苗木を1本1本植える作業から始まり、何十年も手をかけて木を育てます。そして木が使いやすい大きさ、太さになったところで収穫。植えてからだいたい40年以上かかります。収穫した木(丸太)は、柱や板に加工され、家や家具、木工品などの原料として使われます。



1 地ごしらえ



木を伐った地面は、枝や葉が散らかっています。木の幹や枝などを集めて整理し、木を植える場所をつくります。

2 植樹(植林)



苗木を植えます。植える時は、鍬などで地面を掘り、落ち葉などが入らないように気をつけながら苗木を入れ、土をかぶせてから、根と土がくっつくようにしっかりふみます。

苗木の生産



スギは挿し木でヒノキは種から育てます



3 下刈り



植えてから数年は、苗木の成長を助けるために、苗木の周りの草を刈ります。真夏の作業で、ハチや熱中症に気をつけて作業をします。

6 主伐(収穫)



木が大きく育って収穫することを主伐といいます。スギを家の柱として使える大きさにするには、40年以上もかかります。主伐したら、必ず植樹をします。

5 間伐



木が大きくなって隣の木と葉がくっつくようになると、光が足りなくなり、木が大きく育たなくなります。そこで木の本数をへらし、残った木の成長を良くします。

4 枝打ち



製材して木材にした時に、節のない良い材にするために、下の方の枝から落とします。高いところの枝は落とすときは、梯子などを使って木に登って作業をします。

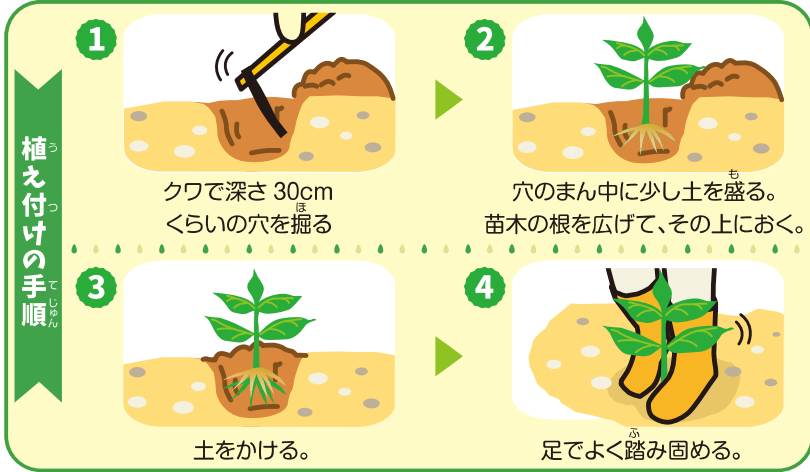


スギやヒノキなどの『人工林』は、大きくなるにつれ、樹木同士の枝や葉が重なり合い、太陽の光をさえぎるので、林内が暗くなります。

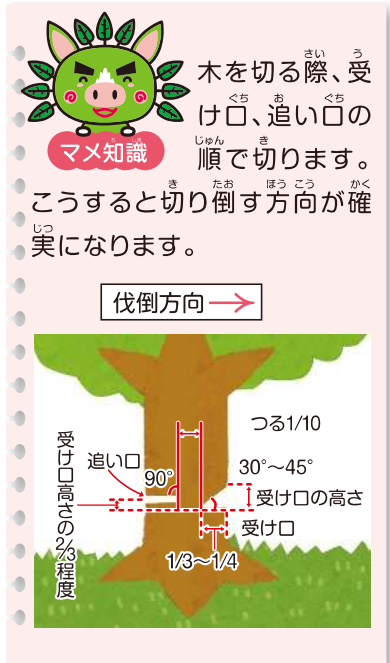
植物の成長には「太陽の光」、「水分」、「養分」が必要ですが、林内が暗いままの状態では森林を放置していると、樹木は下の枝が枯れてひよひよになってしまいます。

また、地面には植物が生えなくなり、雨水が地面を直撃し、土にしみこまず地表を流れてしまい、雨水が多いと、土が洗い流され、樹木の根は浮き上がってしまいます。

このような森林は、豊富な水の供給や土砂災害の防止など森林の持つ重要な働きが十分に果たせなくなってしまっただけでなく、台風などの強風で容易に倒れてしまい、良質な木材を生産することもできません。



はたらく 高性能林業機械



スギとヒノキの見分け方



短い針のような葉が、らせん状についていて、にぎると痛い。



葉はうろこのような形で、葉の裏には白いY字の線がある。